



《教育目標》
みらいにはばたく さくらの子
おもいあい まなびあい きたえあい

良さを価値付ける 自覚させる 自信をもたせる

校長

ある日、5年生の算数の授業を見ていたら、ある子どもが計算ミスをしていました。私が「この計算合ってる？」と聞くと、その答えを確かめるために、かけ算の筆算をノートに書き始めました。途中まで書くと「これじゃダメだ。マスを合わせよう。」と言って消し、再度ノートのマスに縦の数字を合わせて計算し直しました。そこで、計算ミスに気づき、正しい答えを書きました。私は「素晴らしい。マスに合わせて計算する大切さをよく知っているんだね。」と褒めました。小さなことのようにですが、マスに合わせて計算することの大切さをこの子どもは自覚していたからこそ、間違いに気付くことができたのです。



また、先日の会議で、職員に以下のような話をしました。

「皆さんは日々このことを大事にしていますが確認です。授業では、子どもの良さを見つけ伝えてください。授業では子どもを見て回るときに、『字がきれい。』『マスにちゃんと入れて書いているね。前よりとても良くなった。』などと褒めてください。目の前の子どもを、一人一人のノート、考えをよく見て褒めてください。」

私は、できたことを「価値付ける」ことがとても重要だと考えています。子どもは、何気なくやっているだけで、良いことか悪いことがあまり考えていない場合があります。だから、良い行動をしたときは「さすがだね」「よくできたね」と価値付けてあげるのです。それを、何度も繰り返すことで、子どもは「これは良いことなんだ」と「自覚する」のです。褒めることを教師や大人が頻繁に行うことで価値付け、自覚させることができるのです。加えて、子ども自身が、自分に自信をもつことができるのです。

先日、学校運営協議会が行われました。「この地域で育てたい子どもは」「そのために地域で何ができるのか」を話し合う中で、ある委員さんが「子どもが宿題をしているときの字を見て『この字はきれいだね』と褒めてあげます。」とお話していました。全体を見て褒めるだけでなく、部分を見て褒めるというのです。確かにその通りだな、と思いました。

子どもたちの行動は、いつも成功しているわけではありません。むしろ、失敗の方が多いかもしれません。子どもが、失敗しても「次また頑張ろう」と思うのは、褒めてもらって自信をもつからなのではないでしょうか。「できて当たり前」ではなく、「できたことを褒める、認める」大人が多ければ、その分、子どもは自信をもつことができるでしょう。

当校の子どもたちは、優しい子どもがとても多いです。ご家庭でお子さんを褒めて良さを価値付け、自覚させ、自信をもたせていただいているからだと感じています。今後も継続していただければ幸いです。